

---

# カナリアの涙

ごはんライス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

カナリアの涙

### 【NZコード】

N5080M

### 【作者名】

じはんライス

### 【あらすじ】

うーん。非公開設定にするか書き直します。

オレはどうしたらいいのやら。ある朝、おかんが朝ごはんに「」を出したのだ。味噌汁つきで。オレは当然怒った。激怒した。「なんでやねん!」と怒鳴った。みなさんもおわかりだろう。「」はとにかく辛いのである。しかもすっぱい。おまけに、大きいものだと一キロ近くある。しかもトゲがすごい。しかも、くさい。一週間くらい洗つてない靴下のにおいがする。

「オレは なんて食べねえよ！」

「おかんは懸けいな顔をして、一実はあなた本当ほんとうの子じやないのよ」と語りへ。

「え?  
え?  
え?」

おかんが、「うひひひひ」と泣き始めた。

新聞を開いていた親父まで、うう。今まで内緒にしていません。

「そんなあ。そんなあ。そんな」うまなこでよう

גַּדְעָן  
גַּדְעָן  
גַּדְעָן  
גַּדְעָן

卷之三

オレはもういいことにやが、テーブルをひっくり返した。「たけちゃんー、おへんごーのー。」「うぬせー。」そして、階段を上つ、屋上へ出た。

ヘリコプターに乗り込み、エンジンをかけた。

飛び立つた。

その夜、新しい内閣総理大臣に新田昭雄氏が就任した。若干49歳である。

オレとたけこは、それをニュースで眺めながらキスをした。ソファに押し倒したい。

「いいだろ。なあ。たけこ」

「ああん。だめよう。だめ」

「だめか」

オレはたけこをひつゝつ返した。「たけちゃん…ど…」行くの…」「つるせえ！」

オレは、階段を上り、屋上へ出た。

ヘリコプターに乗り込み、エンジンをかけた。

「くそ！ くそ！ くそ！」

順調に飛んでいたが、山下町の上あたりにきたところでついに墜落してしまった。

「うわああああああああああああ」

墜落の原因是不明である。何ということだ。残念。

野球賭博がからんでないか少し心配である。まあ大丈夫だとは思うが、一応念のために、電話をしてみよう。確認してみなくては。ふるるるるるるるる。がちや。

「はい。もしもし。マンモス研究所ですけど」「あの。明日は晴れですか。雨ですか」

「マンモスです」

オレはガツッポーズをとった。

「よつしやあああああああ」

その瞬間撃たれた。油断していた。

「つぎやああああああ」

オレは倒れた。周りのみんなが拍手してる。いつの間にかアカデミー賞の受賞会場だ。

オレは倒れているので、挨拶ができない。

「くそう。くやしいなあ」

葬儀は来週します。

さて。そんなことを経まして、数年後、当時の内閣総理大臣、山田総一郎がある政策を打ち出しました。対アメリカ対策。

「すばり、「政策です。」の「政策は画

期的です。」政策のことがよくわからなことにつる読者のために少し説明します。メモ帳をご用意ください。

いや！

やはりやめます。どうしても知りたい人はお金ください。少なくともいいです。十円でも。

オレたちはひまじやないんだ！！！

オレはジャンバーを着て原付にまたがる。牛丼屋へ行くんだ。牛が食べたいんだ。並盛じゃないぜ大盛りだせサラダもつくるんだ。前から山本先生が歩いてくる。オレの担任の先生だ。むりむりボイン！！

そして去つていった。

見とれていったせいで、トラックにはねられ、吹き飛んだ。  
気づけば夜空を眺めてる。体じゅうが痛い。ああ。満月がきれいだ。すゞぐれいだ。本当か。そうだとも。わかつてゐだらう。わかつちやこぬけどやめられない。やめられないこの皿を。くせにならるこの皿を。

やみつきトランクラーメン……

イハ――イ――！――！

よつしゃ。よつしゃ。よつしゃ。

わつしょこ。わつしょこ。

やつたね。だから、やうなつたのだ。うそつけ。

だいたいお前はなあ、さて、ここで、みなさんに問題です。キー

ワードは、13、8、42のこずれかです。

じゅんじゅん、第一問！

「牛は寝ましたか？起きましたか？」

よしおくんが手を挙げた。

「はい。よしおくん。どうぞ」

「はい。答えは、牛はインド人だったから太つてバスから降りた、が、正解です」

「そのとおり！よくわかったね。賞金一億円一いや三億円一・

「ふざけんな！」

「ふざけんなもん！」

「じゃ一殺す！」

じやあ、まつ

ハシシコだよーみんなー！

ボンボンも、マダムも、きんたまクラッショ。クラッショ。マテ  
シ。シロ。

マラシシゴ――!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5080m/>

---

カナリアの涙

2010年10月10日00時15分発行